

MIRAI no SHI GOTO

Guide Book

学生のための
ミライの仕事
ガイドブック

農業編

AGRICULTURE

農業ってどんな仕事
農業の「イマ」を見てみよう!
「農業」を仕事にするために



農業ってどんな仕事 01
農業の「イマ」を見てみよう! 02
「農業」を仕事にするために 03



農業って、 どんな仕事？

作る！ 農業生産

独立就農（経営者）

事業主として
自分で農業を経営

経営者として

- 経営計画を立てる
- 農地を見つける
- 販売先を見つけて出荷する
- 作物・家畜を選定して生産する
- より良い生産・販売にむけ改善する

独立して農業を経営する以外に、会社員として就農する道も！

雇用就農（会社員）

農業生産法人で会社員として働く

会社員として

- 作物・家畜を栽培・飼育管理する
- 販売する
- 若くして現場・部門のリーダーを任されたり、経営に参画することも
- 将来的な独立を支援してくれる農業法人も

支える！ 農業関連団体 ・企業

組合（JAなど）

- 営農支援 生産技術の向上と経営改善の支援
- 販路支援 新しいルートを開拓する 支援メディア・広告宣伝の支援
- 資材提供 必要な資材・機械などを農家のニーズに沿って提供

一般企業

- 農業機械メーカー
- 農業資材など（肥料・農薬・種苗）
- 農業技術の開発
- 資材・種苗販売（ホームセンターも）

公務員

- 普及員など農家支援のほか、試験研究なども

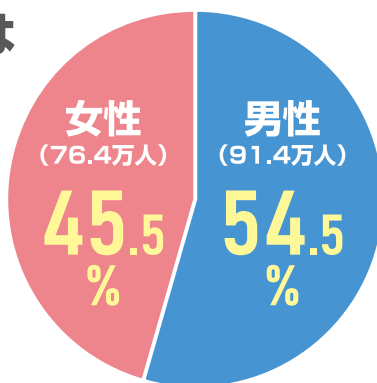
人類が何千年と続けてきた歴史ある仕事

農業の「イマ」を見てみよう

現在、農業に携わって働く人は
約168万人!

そのうち…独立就農者: 約140万人
その他: 約28万人(生産農業法人や一般企業など)
イマの農業は、高齢化が進み、後継者問題が深刻化。
日本の食糧自給率低下にも繋がる要因に。

出典: 農林水産省「労働力に関する統計」



平均年齢
67歳

農業界に光あり!

若者が増えているってホント?

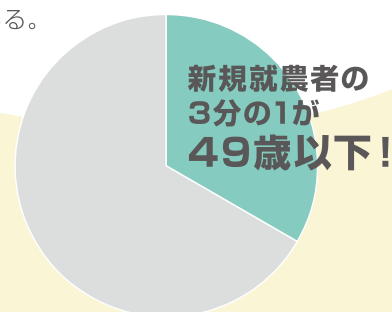
深刻な後継者問題は続いているが、新規就農者として若者が増えてきているという事実もある。

新規就農者数…**約5.5万人** ※平成25年に比べ、5000人増加・10%アップ

そのうち…**49歳以下 約1.8万人**

一般企業で働いていた人が農業へ転職することも多いようだ。
現在は新しく農業を行う人に向けた就農支援制度も充実しているので、
農業出身者ではない人も農業を始めやすい環境になってきている。

出典: 農林水産省「労働力に関する統計」



全国から見た茨城の農業

茨城県は全国でも農業が盛んな地域。ランキングで見てみよう。

- 総農家数 ベスト3 1位 長野県 2位 **茨城県** 3位 兵庫県
- 農業産出額ベスト3 1位 北海道 2位 鹿児島県 3位 **茨城県**

茨城県全体で、
農業だけで
4,967億円もの
売り上げがある!

例えば 主食である米は、産出額全国第4位。4,967億円のうち17.5%、つまり869億円は米の売上となる。

- こんなにたくさん収穫できる! 全国順位1位の農産物
鶏卵、かんしょ、白菜、メロン、れんこん、
ピーマン、ほしいも、水菜、小松菜、切り枝、
チンゲンサイ、芝、栗、セリ など

出典: 茨城県「統計キッズ-農業-」

MIRAI
no SHI
GO TO
02

「農業」を仕事にするために

「農家」と呼ばれるには規定がある！

販売農家

農業を生業として農作物の栽培を営む自営業者。

経営耕地面積30アール以上 ※量 約16,500枚分
農作物の販売金額が年間50万円以上

自給的農家

主に、自分の家で食べる作物の栽培をしている農家。

持っていると活躍出来る！ 農業で活かせる資格

特殊自動車免許

トラクタなどの操作に必要。
※大型の場合は、大型特殊免許が必要。

牽引免許

農機具を牽引するために必要。

ボイラー技士

大規模のビニールハウスで作物を育てる場合、
室内の温度管理のためボイラーを使用する場合に必要。

危険物取扱責任者

ボイラーの運用に使う燃料・ガソリンなどの
可燃物を取り扱う場合に必要。

毒物劇物取扱責任者

中には劇薬となる農薬もあるため、農薬を使用する際に必要。

家畜人工授精師(AI)

良い血統の牛や豚を繁殖させるために必要。



これからの農業について

スマート農業が農業のミライを変える！

日本が解決しなければならない問題として「高齢化」「後継者不足」「食料自給率の低下」があげられる。
これらを解決するために導入されたのが「スマート農業」である。

例えば

自動走行トラクター

機械操作により、誰でも同じ速度・同じ精度で農作業が可能になる。
作業による疲労軽減・深刻な人手不足を解消しながら、農業生産を維持することが出来る。

農業用ドローン

ドローンが農薬を散布する事で労働力の軽減し、生産コストを抑えられる。
また、上空から撮影する事で農地の状況を広範囲で確認することが出来、品質管理が簡単に出来る。

情報通信技術の活用

温度・湿度・肥料・品種・作業などをデータ化して一括管理することで、
品質の向上につながり、収穫量の増加・収益の増加につなげる。

農業は体力勝負であり、経験がないと始めにくいというイメージがあるかもしれない。しかし、いまやIT化が進み、誰でも農業で活躍出来るようになった。農業を始める人への支援制度も増えているので、日本の農業のミライは明るくなっている。

MIRAI
no SHI
GO TO

03